

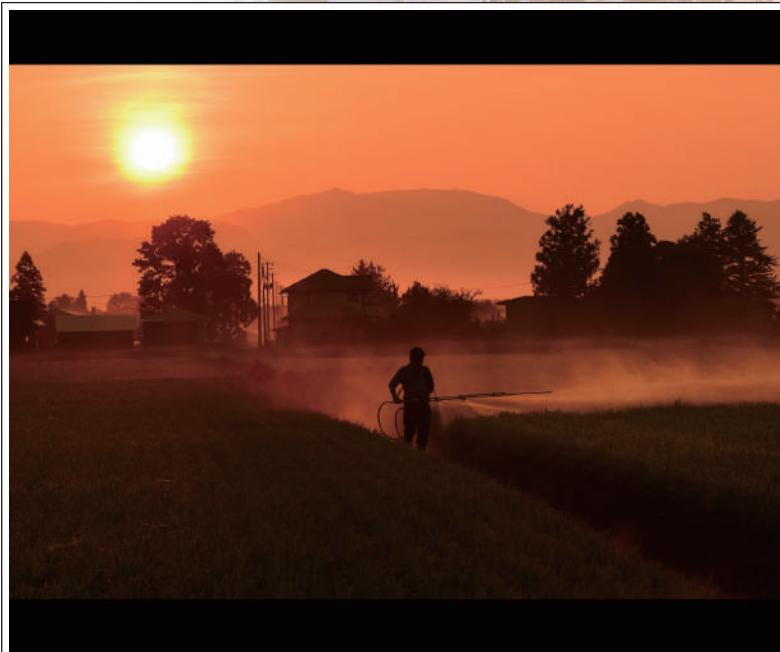
第29回

やまがた農村フォトコンテスト

[募集テーマ]

やまがたの農村をテーマに、あなたが伝えたい山形の農村の四季、風景、働く喜びなど、幅広く農村生活をとらえたもの

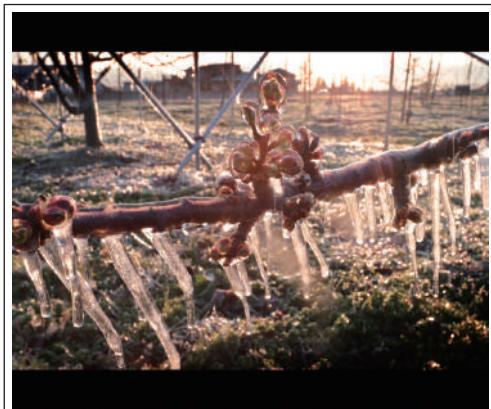
(田園の風景、農作業の風景、伝統文化(祭り)、疏水、地域保全活動等)



最優秀賞

「無風の朝」長谷部 基雅(米沢市)
■撮影場所／米沢市

優秀賞

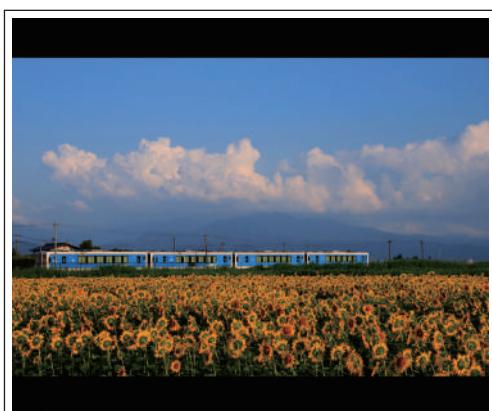


「凍害(サクランボの花芽)」富樫 辰也(山形市)
■山形市

水土里ネットやまがた会長賞



「ビーチパラソルで作業」今野 直樹(遊佐町)
■三川町



「ひまわり畑沿線」山川 由美子(山形市)
■中山町

山形新聞社賞



「初めての雪中白菜採り」石崎 幸宏(庄内町)
■庄内町

特選



「実りの秋」島貫 一郎(飯豊町)
■飯豊町



「田園のリアルな案山子」
工藤 孝(寒河江市)
■真室川町

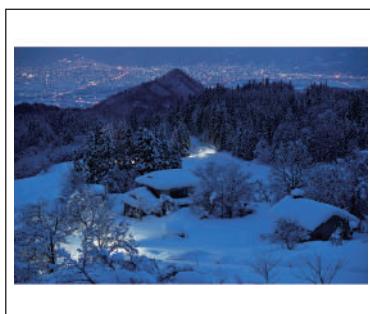


「日の出の頃」佐々木 吉治(酒田市)
■遊佐町

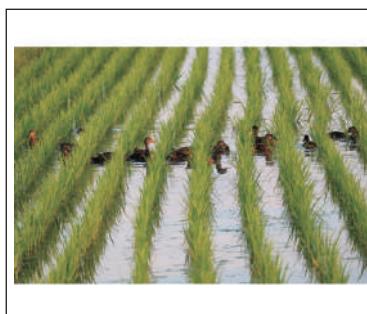
入選



「猫も気になる」伊藤 和男(山形市)
■山形市



「夜明け前」植松 晃(山形市)
■山形市



「皆で並んで除草中」
佐々木 隆(酒田市)
■酒田市



「体験田植え」富樫 馨(酒田市)
■酒田市



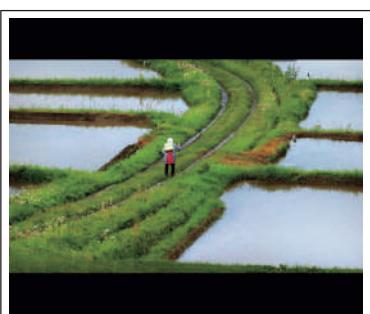
「待ちわびた春作業」
鈴木 貞治(天童市)
■酒田市



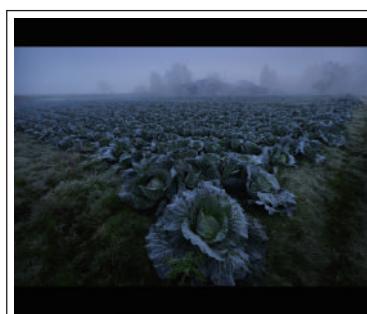
「遠い春」芳賀 長悦(寒河江市)
■大蔵村



「うららかな農村の春」
三浦 民雄(酒田市)
■庄内町



「畦道」吉田 功(山辺町)
■朝日町



「キャベツ畑」鈴木 咲良(上山市)
■白鷹町

最優秀賞**「神社とうもろこし聖火ランナー」**

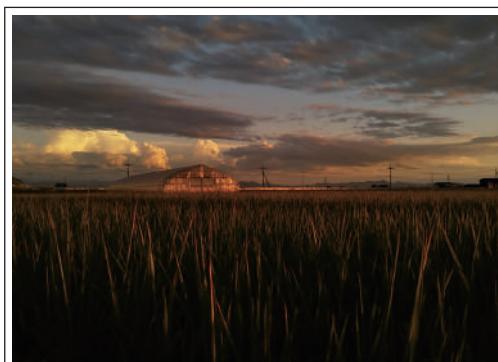
佐藤 成(鶴岡市立豊浦小学校2年)

■鶴岡市

優秀賞**「メロンと私どっちが大きい?」**

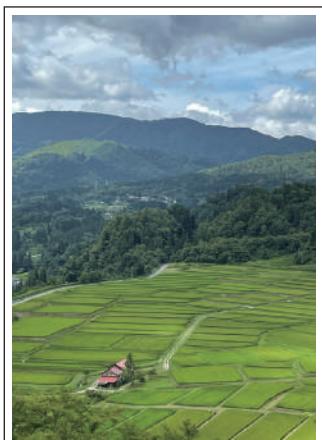
加藤 ゆま(鶴岡市立豊浦小学校1年)

■鶴岡市

**「赤色の畠」**

福田 朋佳(酒田市立東部中学校2年)

■酒田市

特選**「風情ある棚田」**

安達 花歩(県立山形北高等学校1年)

■朝日町

**「出番はこれから」**

高田 紗音(酒田市立東部中学校2年)

■酒田市

**「とったぞー!」**

佐藤 勝(鶴岡市立豊浦小学校5年)

■鶴岡市

入選**「ここのお米おいしいね」**

石崎 朝光(庄内町立立川小学校4年)

■庄内町

**「きれいだね」**

齋藤 悠月(鶴岡市立朝陽第六小学校6年)

■遊佐町

**「晴風の日」**

佐竹 こころ(県立山形北高等学校1年)

■天童市

審査講評



山形県写真連盟 会長
阿部 直美

平成5年に第1回コンテストが実施されてから今回で29回目を迎めました。この間、多くの写真愛好家が農村の四季や風景、人々の働く姿など幅広い農村の生活をテーマにそれぞれの視点で捉えた写真を応募し、農村の良さや農業の大切さを表現していただきてきました。

今回の応募作品数は、一般の部に70人から207点、学生の部には小・中・高校生114人から146点の応募がありました。総数で184人から353点となり、コロナ禍以前の状態に戻ってきました。学生の部の小学校1年生から一般の部の最高齢92歳まで幅広い応募者があり、本コンテストの認知度の高さを感じたところです。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためイベントや民俗行事が中止となり、祭りを捉えた作品が少なかったのは残念な限りです。

とはいっても応募作品は、農村や農作業の風景を捉えた素晴らしい写真がほとんどで、審査には大変苦労しました。入賞された皆さんには心からお祝い申し上げます。

私たちの周りには、農業に関わる文化や民俗行事、ふるさとの原風景が数多く残されています。それらを後世に伝えるためにも、皆さんのがんばり感を被写体に接し、感動する写真を撮り続けていただくことを期待します。

[一般の部]

最優秀賞

「無風の朝」

長谷部 基雅（米沢市） ■撮影場所／米沢市

朝陽が昇る早朝、水田の害虫防除作業を行っている人物と奥の家並を逆光の中でシルエットにし、ノズルからの噴霧が朝日に輝いている農作業の一シーンを捉えた美しい写真です。朝の光の状態を画面構成に上手く生かした技術的にも優れた写真です。これまでにも朝の光を捉えた美しい農村風景の写真を応募されていますが、この視点を大事に写真に対峙してもらいたいものです。

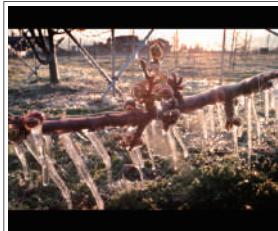


優秀賞

「凍害(サクランボの花芽)」

富樫 辰也（山形市） ■山形市

凍霜害防止のため散水し、その水が氷結する際に放出する熱を利用して作物を保護する散水氷結法による果樹を撮影したものですが、花芽が氷で保護されているような錯覚すら覚えてしまう写真です。今年はとりわけ霜の被害が多く発生したと聞きますが、早朝に圃場に出かけてこの場面を撮影した努力を評価したいものです。イメージを持って撮影する事が必要だと教えてくれる写真です。



水土里ネットやまがた会長賞

「ビーチパラソルで作業」

今野 直樹（遊佐町） ■三川町

ネギ栽培の農機具を操作している作業風景を捉えた写真です。稻作からの転作作物としてネギを栽培しているのですが、奥のほうには青々とした水田も映しこまれ、これからの農業の方向性を表現した写真となっています。また、暑さを防ぐために農機具の座席にビーチパラソルを付けて作業している姿も現代の農業の姿を象徴しているようです。



優秀賞

「ひまわり畑沿線」

山川 由美子（山形市） ■中山町

左沢線の沿線に咲き誇るヒマワリと電車を捉えた写真です。夏の陽が西に傾き始め、太陽光のオレンジ色が徐々に濃くなる時間帯を狙って撮影したもので、夏の光の変化を上手く表現した写真です。空に浮かぶ雲にも赤みがわずかに付いており、昼下がり時の時間帯とは趣の異なる夏を捉えた美しい写真です。撮影する時間帯と電車の通過時間を計算しつくした写真です。



山形新聞社賞

「初めての雪中白菜採り」

石崎 幸宏（庄内町） ■庄内町

雪の下の野菜は甘くなるといわれますが、その雪の中に埋もれた白菜掘りを体験した子供の“ヤッター！！”といった表情が素敵です。自分の顔ぐらいの大きい白菜を掘り出したという満足感があふれたほのぼのとした写真です。イベント時での写真だと思いますが、雪の下の農作物を子供が収穫する姿には子供たちの農業への理解を深める一面が感じられます。



[学生の部]

最優秀賞

「神社とうもろこし聖火ランナー」

佐藤 成（鶴岡市立豊浦小学校2年） ■鶴岡市

今年はオリンピック・パラリンピックの年だったわけですが、山形県内でも聖火リレーが行われ、多くの県民がその姿を見ることができたのではないでしょうか。この写真はトウモロコシを聖火に見立てて手にし、笑顔で走る少年の姿を捉えたものです。撮影者は小学校2年生でお兄ちゃんを撮ったものでしょうか。兄弟の仲の良い関係が見る側に伝わる写真です。



今年度の展示は10月28日にビッグウイングで行う土地改良大会のときのみとなります。

■主催：水土里ネットやまがた（山形県土地改良事業団体連合会）

■協賛：(株)メコム／富士フィルムビジネスソリューションジャパン(株)山形営業所／(有)たかしま保険サービス(株)ユアシス／(株)山形測器社／山交観光(株)

■後援：山形県／山形県多面的機能支払推進協議会／山形県写真連盟／山形新聞・山形放送

お問い合わせ



ス ド リ 水 土 里 ネ ッ プ やまがた

農業農村ネットワーク

第29回 やまがた農村フォトコンテスト事務局

〒990-2473 山形市松栄1-7-48 TEL 023-647-5371 FAX 023-647-5391



入賞作品を紹介しています
www.sanae.or.jp